

■本郷台中学校 3年 社会「第5章 近代（後半） 第3節 戦争に向かう世論」

授業のねらい

○ヒトラーの政策を「自分だったらこうする（歴史に生きる主体）」という視点で捉えさせることで、生徒の歴史認識を深めさせる。

タブレット端末活用の工夫／教育データ活用の工夫

(1)「1941年9月、ドイツ人である君の家のドアを、幼友だちのユダヤ人をたたいた。『国外に逃亡するので1週間家にかくまってほしい』。あなたはどうしますか。」と発問した後、自分の意見や考えを Forms に入力させた。

(2)「次の時間までに Excel にエクスポートし、生徒の意見を集約しておく。」

授業の初めに、「かくまう」派と「かくまわない」派に分かれさせた。そして、同じ意見をもつ者同士が集まったグループ内で、なぜそう考えたのか理由を話し合った。

(3)グループでの話し合いで出た意見を Teams のチャット機能に入力させた。また、「反論タイム！」と称し、各班の意見に対する質問や反論を出させた。

(4)この授業を終えて自分の意見や考えがどう変容したかを Forms に入力させ、そのうちのいくつかを「社会科通信」で他の生徒に共有した。



生徒の様子

○同じ立場でグループを編成することで、活発な意見交換を行っていた。また、チャット機能を活用した発表でも、日頃発言が得意でない生徒も積極的に意見を発信していた。

成果

○生徒個人の意見や考えを Forms に入力させることで、集計したり共有したりすることが可能になった（この結果に基づいて「かくまう」派と「かくまわない」派に分かれてグループで話し合いができた）。

○グループでの話し合いで出た意見を Teams のチャット機能に入力させることで、板書の代わりに視覚化しながら共有、振り返りを行うことができた。

○この授業を終えて自分の意見や考えがどう変容したかを Forms に入力させることで、生徒が自身の学びの深まりを自覚できるようになったり、教師による評価が容易になったりした。

課題

○Teams の会議に参加するタブレットの台数を制限しすぎてしまい（各班1台）、他者の意見を確認しづらくなってしまった。しかし、全員参加にすると、グループでの意見交換という意識が薄れ、個人のチャットという雰囲気になってしまうと考えられるので、効果的な運用を検討したい。